

2020年12月号より「学ぶ・つなぐ・広げる」を連載しています。インフラの整備・管理を通じて社会に貢献するという重要な使命を果たすため、全国の建設技術関係者は、連携・交流を図りつつ、自らの技術力を向上させ、成長していく努力を積み重ねています。本コーナーでは、各地で進められている様々な取組を紹介していきます。

学ぶ・つなぐ・広げる

土木技術の伝承・技術力の向上にむけた活動 ～特別会員と若手技術者との意見交換会～

おお たに むつ ひこ
大谷 睦彦*

1. はじめに

近年、若手の公務員技術者は、職員数の減少や公共事業における業務量の増加により、現場に出る機会が奪われ、技術や経験を取得する機会が減少しており、土木技術者の技術力低下が懸念されている。

一方で豊富な経験と高度な技術を有する土木技術者が、多数定年退職により職場を離れており、これらの定年退職者の技術を若手技術者へ伝承することで、若手技術者の技術力向上を図ることができるのではないかと考えている。

そこで、宮崎県土木部及び県土整備部を退職した技術者で構成する宮崎県特別会員支会が取り組んだ「土木技術の伝承・技術力の向上にむけた活動」について紹介する。

2. 宮崎県特別会員支会とは

現職の皆さんは、「特別会員支会」について知らない方が多いのではないかと思います。この会は、退職された方が、引き続き全建会員として、これまで培われた技術、経験等を後進の方々へ伝えるなど、社会に貢献することを目的に結成できる団体である。

現在結成されている特別会員支会は、全国で10協会あり、宮崎県特別会員支会もその一つであり、平成19年に結成し、令和3年度の会員数は44名である。毎年、1～2回の研修会や現地視察を開催しており、会員相互の親睦はもちろんのこと、近年は、現職の全建会員の参加もできるような企画を立てて活動している。

3. 今回の活動のきっかけ

宮崎県県土整備部では、毎年、年度末に退職予定者が、それぞれ経験してきた事や退職に当たったの思いを発表する技術講習会を開催しており、おおむね好評を得ている。しかし、講師の割り当て時間が限られることや年度末で講習会に参加できない若手が多数いることから、宮崎県特別会員支会としても新たにそのような機会が設けられないか模索していた。

このような中、公益財団法人宮崎県建設技術推進機構が、令和元年度から、担い手確保や技術力の向上・継承などの活動に対して助成する事業を実施しており、令和2年度にこの事業への応募がきっかけとなり今回の活動を実施した。

4. 土木技術の伝承・技術力の向上にむけた活動 ～特別会員と若手技術者との意見交換会～

活動の内容は、宮崎県特別会員支会の会員が、県内の出先機関（土木事務所、港湾事務所等）へ出向き、特に若手技術職員と少人数のワークショップ形式による意見交換会を実施するものである。

意見交換会では、予め質問（テーマ）等を聴取し、それに対応できる会員を講師として2～3名程度派遣し、自らの経験談や技術的アドバイスを直接やり取りすることとした。

1) テーマの設定

どのようにテーマを設定するかが課題であったが、今回の活動について、本庁技術企画課へ説明に行ったところ、賛同いただいた上に、各出先機関に今回

*宮崎県特別会員支会 事務局長（株式会社 西田技術開発コンサルタント 常務取締役）

の活動の周知やテーマを聴取する作業を担っていただいた。このことによりスムーズに活動を進めることが出来た。出先機関ごとに様々なテーマがリクエストされたが、主なテーマの内容を種別ごとに分け取りまとめた内容を表-1に示す。

表-1 意見交換会のテーマ

種別	テーマの内容
技術力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・技術力を磨くためのポイント・コツ ・公務員技術者が有すべき技術力とは？ ・現場での判断力を養う方法
具体的技術対応力	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の豪雨を受け、排水施設の降雨確率等の考え方 ・工事を進めるうえでの施工手順や品質管理のポイント ・脆弱地質で苦勞したこと
災害対応力	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対応(応急復旧～査定～完成)の基本 ・災害探択、災害関連探択のコツ ・二次災害対策(仮設、仮復旧) ・大規模災害経験を踏まえた対応のポイント
これまでの経験全般等	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗事例と解決方法 ・一番思い入れのある工事 ・楽しかったこと、やりがいを感じたこと ・仕事に対するモチベーションの高め方 ・苦手な業務の克服方法 ・仕事の効率化へのアドバイス ・業者や地元の接し方 ・会計検査対策～日頃からの取組

テーマの内容を見てみると、若い人たちが土木技術者として仕事を進める中で、苦勞していることや悩んでいること、不安に思っている事などをくみ取ることが出来るようだ。

2) 意見交換会の開催状況

出先機関での在職経験や提出されたテーマの内容の精通度などを考慮し選出した講師陣が、それぞれ出先機関と日時や場所、そして進め方等を協議し、合計7箇所で開催された。表-2に開催状況を示す。

表-2 意見交換会開催状況

番号	実施日	事務所名	派遣講師(人)	参加者(人)
①	R2.10.20	西臼杵支庁土木課	3名	5名
②	R2.11.5	高岡土木事務所	2名	9名
③	R2.11.12	日南土木事務所、油津港湾事務所	2名	7名
④	R2.11.20	日向土木事務所	4名	15名
⑤	R2.11.27	宮崎土木事務所、中部港湾事務所、建設技術センター、推進機構、道路公社	3名	47名
⑥	R2.12.9	小林土木事務所	2名	11名
⑦	R3.3.3	串間土木事務所、串間市建設課	3名	13名

3) それぞれ開催の工夫

今回の活動は、初めての取組であったため、それぞれの会場でワークショップ形式やスクール形式を上手に使い分けて、工夫を凝らした意見交換とした。さらに、若手技術者の緊張をほぐすために、お茶菓子を準備し、ティータイムを設けるなど、和やかな

雰囲気を作るよう心掛けた。

若手技術者が何でも話せるようにと、①、③、⑥の会場では、上司の参加は進行役のみとした。さらに⑥の会場では2つのグループに分け、それぞれサポート役として主査クラスのコーディネーターを付け、グループディスカッションを行った。



写真-1 グループディスカッションの様子

②、⑦の会場は、事務所の職員数が少ないため、若手以外に上司の技術職員も参加し、会の活性化を図った。さらに⑦の会場では、管内の市の若手職員にも声をかけ参加していただいた。

④の会場では、若手技術者を対象としたが、所長以下幹部の職員が是非傍聴したいということで、オブザーバーとして参加されていた。

⑤の会場では、全建宮崎支部の研修会の中での開催とし、スクール形式で実施した。



写真-2 ワークショップ形式の様子

4) 実施内容

意見交換会では、それぞれの講師陣が、テーマの内容を切り口に、経験談や苦勞話そして技術的ノウハウ等々、色々な内容の講演をし、それに対して若手技術者から多くの質問が出された。

また、テーマ以外にもフリーにディスカッション方式で活発な意見交換がなされており、どの会場も予定の時間では足りずに終了した。そのため、意見交換会後に、足りなかった時間を埋めるべくまた、若い人の本音を聞きたいこともあり懇親会を計画していた。しかし、コロナ感染の影響もあり、7会場で4会場で開くことが出来なかったことは、非常に残念であった。



写真－3 講師の講演の様子



写真－4 意見交換会後の和やかな集合写真

5) 若手技術職員の声

意見交換会に参加した若手技術職員の声をいくつか紹介したい。

- ・同じ立場で働いていた先輩の話は、実践的かつ具体的で大変勉強になった。特に「失敗談」とその「打開策」の話が聞けたことは、経験の浅い私には貴重な機会であった。
- ・大災害の復旧工事の体験談で「大きな経験と感動と達成感を得た」という話が大変記憶に残っており、その後の災害査定や復旧工事に取り組む意識が変わった。これからもこのような座談会は是非続けてほしい。
- ・他の担当や市町村との調整が非常に重要であることや工事で賠償問題にならぬように、常にハウレンソウを徹底し情報共有を行うことの大切さを学ぶことが出来た。
- ・私たちが経験することが難しい大規模な事業の話聞いて、今後の業務遂行の糧となった。
- ・土木は経験工学であることを実感し、OBの方々が常々心掛けていたことについて、自分と照らし合わせることができ、有意義な機会となった。

6) 講師陣の声

講師を務めた宮崎県特別会員支会の会員の声を紹介する。

- ・若手職員は現場に出る機会が随分と減ってきており、OBの失敗談やその時どう対処したかなどを伝えることで、現場対応での参考になったと思う。
- ・参加者が真剣なまなざしで話を聞いてくれて、非常にやりがいを感じた。さらに、コロナ禍で研修会等が中止され、上司や同僚とじっくり話をしたり、飲み会を開催する機会が減少する中、今回の意見交換会は貴重な場であると感じた。
- ・若い技術者の役に立ってほしい、土木への情熱ややりがいを感じてほしいとの思いで取り組んだが、皆さん熱心に聞いていただき嬉しかった。

5. 今後の取組

宮崎県特別会員支会が、初めて取り組んだこの活動は、ご承知の通りコロナ禍の中であり、県内の出先機関の中で計画できなかった事務所があった。さらに鳥インフルエンザの発生により中止した事務所もあった。

このため、引き続き未実施の機関を優先して取り組むこととし、令和3年度も公益財団法人宮崎県建設技術推進機構の助成する事業の認定を受け、現在、準備を進めているところである。

6. おわりに

今回の取組について、現職の中堅・幹部技術者の方々から、若手指導を含め今後の仕事の進め方に非常に役立つなど、貴重なご意見を伺ったところであるが、宮崎県特別会員支会が、今回の課題である「土木技術の伝承・技術力の向上」に対して、今後どのように貢献できるかが問われるところである。

今回の意見交換会の対象者は、若手技術者ということで主に技師の方々（入庁から7、8年未満）を対象に実施した。しかしながら、我々退職者からすると、現職の方々はある意味全てが若手？技術者である。したがって、まだまだ活動する余地が残っているのかもしれない。体力と相談する必要があるが…。

最後に、今回の取組に当たりご協力いただいた本庁技術企画課や出先事務所の方々、そして、快く講師を受けていただいた会員の方々に御礼を申し上げます。

【著者紹介】 大谷 睦彦（おおたに むつひこ）

昭和56年宮崎県入庁（土木職）。都市計画課長、河川課長、都城土木事務所長、県土整備部次長（道路・河川・港湾担当）を経て、平成30年3月に企業局副局長を最後に退職。現在、設計コンサルタントに再就職し、宮崎県特別会員支会の事務局長を務める。